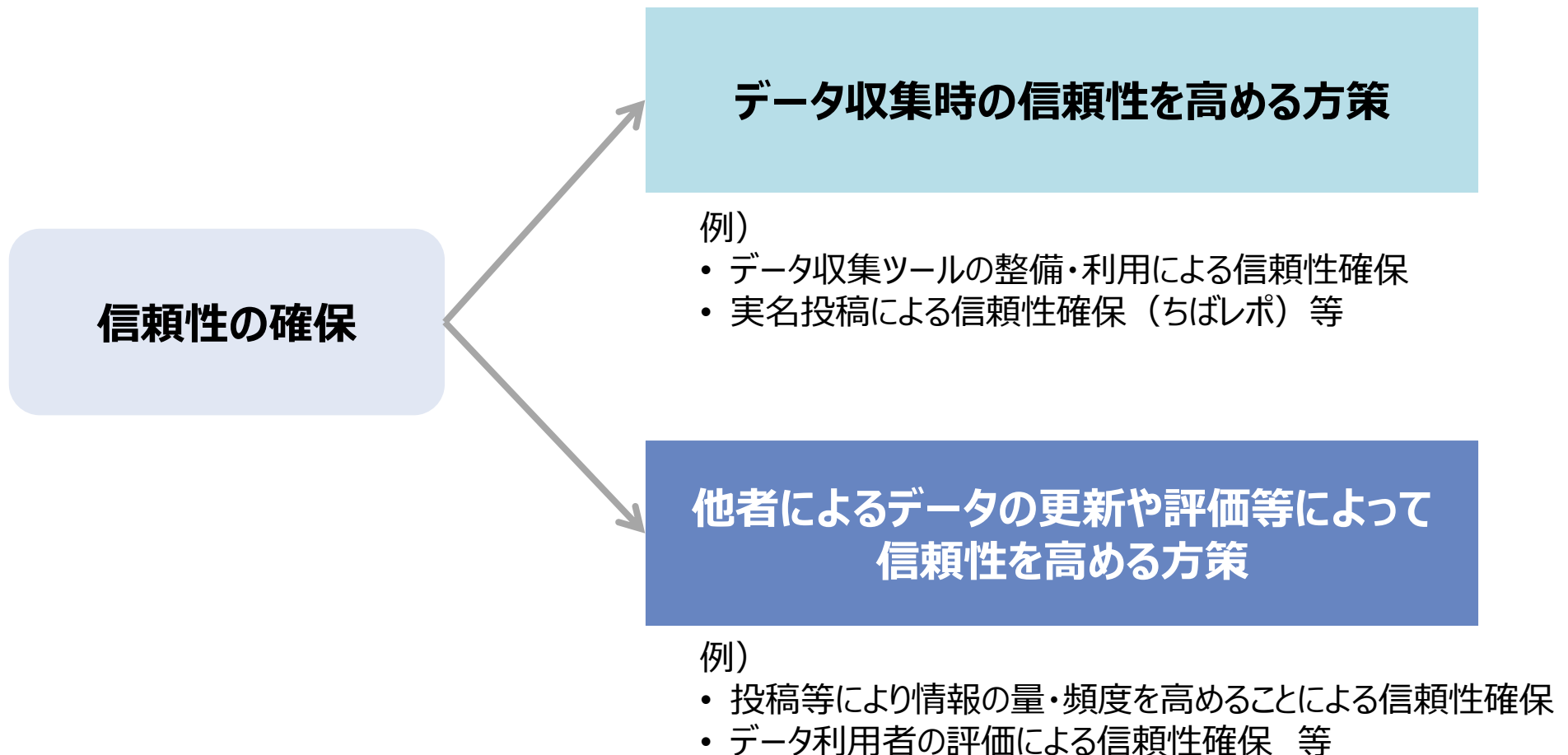


オープンデータの提供・評価・修正のための プラットフォームについて

平成30年12月

政策統括官付

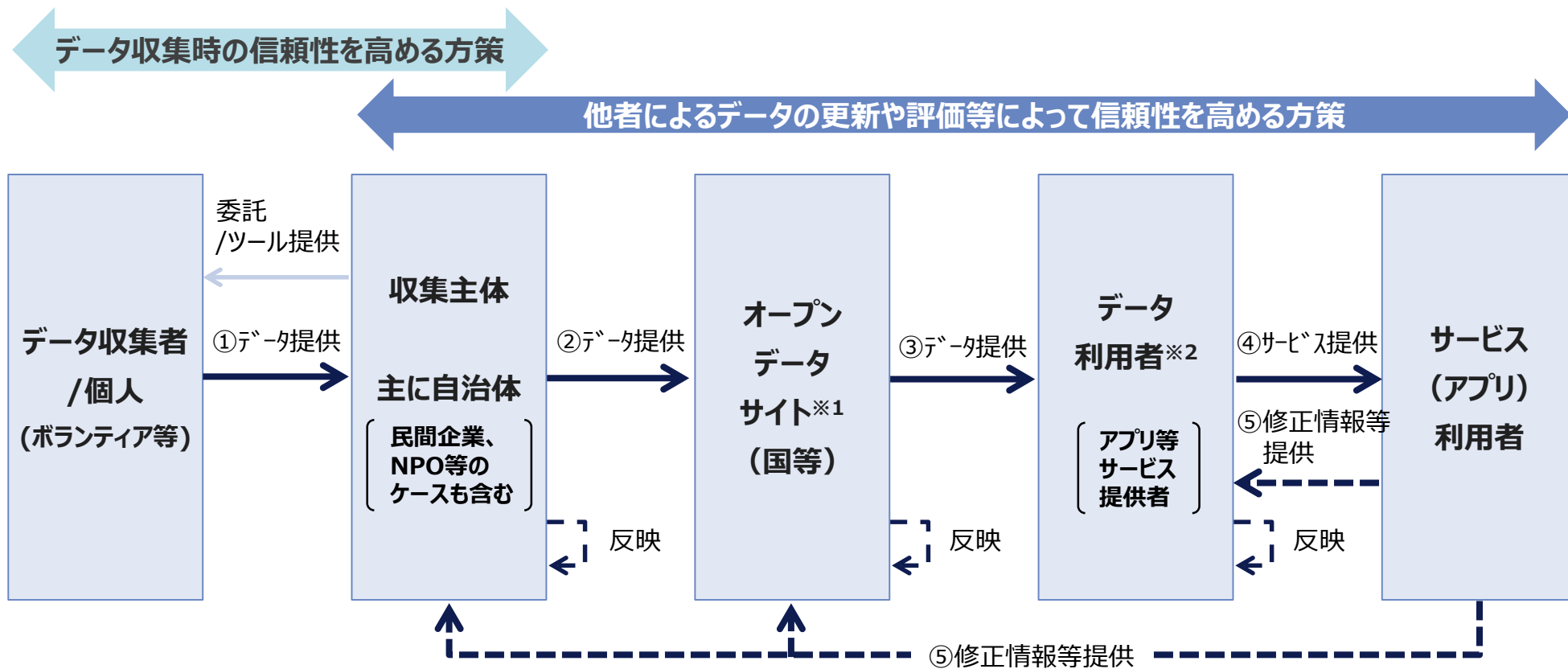
- 多様な主体により、それぞれ収集・提供されるバリアフリー情報は、データの正確性や鮮度等に差があるため、正確性や鮮度等を含めたデータの「信頼性」を確保することが必要
- また、そのサービスやデータの信頼度を利用者が判断できる仕組みが作られることが望ましい



2. 議論の前提(整理)

○信頼性確保の方策を検討する前提として、データ収集からデータ利用までの一連の流れとプレイヤーを以下の通り定義し、以下検討を行う。

凡例 → : 収集等 → : データの流れ (提供) ---→ : データの流れ (修正)



※1:自治体が自身のHP等でオープンデータ化するケースも想定。その場合、収集主体=オープンデータサイト

※2:例えばバリアフリーデータ(マップ)を自治体がオープンデータにした場合、データ利用者=自治体になる

※1と※2から、自治体が、収集→オープンデータサイト→データ利用者となるケースも想定される。

3. 他者によるデータの更新や評価等による方策の特徴

○他者によるデータの更新や評価等によって信頼性を高める方策は、(1)サービス利用者からの情報(投稿等)によりデータを修正・更新することによる方法と(2)利用者等によるサービスやデータの評価を共有することによる方法が想定される。

方策	他者によるデータの更新や評価等によって信頼性を高める方策	
	(1) データの更新・修正による方法	(2) 評価の共有による方法
概要	<ul style="list-style-type: none"> ✓ サービス利用者からの情報(投稿等)によりデータを修正・更新し、誤りや陳腐化を防止しデータの信頼性を高める ✓ サービス利用者の関与(投稿等の数)が増えるほど信頼性は向上する 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ サービス利用者等によるサービスやデータの評価結果を公にすることで、データ利用者(サービス提供者)や収集主体の信頼性確保の取組みを促し、間接的に信頼性を確保する ✓ 評価が公になることでデータやサービスごとの信頼度を利用者が判断することができる
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ✓ リアルタイムで、最新の情報を収集することが可能 ✓ データの精度が高まり、サービス/サイトの価値を高める(品質向上に寄与) ✓ データ利用者(サービス提供者)が更新・修正を行う場合は、コストを価格転嫁する事が(比較的)容易 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ データ利用者・収集主体による信頼性確保の取組みを促進(住民投稿を反映するための仕組み作りの促進) ✓ 収集主体を自治体とする場合、国の取組としての親和性が高い
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 信頼性を確保するためには一定の規模を確保する事が必要 ✓ 民間サービスが担うべき分野であり、国の取組としては親和性が低い 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 信頼性を確保するためには一定の規模を確保する事が必要 ✓ 民間事業者によるマネタイズが困難な領域

4. 具体的な信頼性確保(更新・評価等)の手法検討

○それぞれの方策ごとの手法(例)の評価者と評価対象を整理した。

方 策		(1) データの更新・修正による方法		(2) 評価の共有による方法	
手 法 (例)		I. アプリ等のサービス提供者(データ利用者)が、サービス利用者からの情報(更新・修正投稿等)を基に、データの更新・修正を行う	II. 自治体等のデータ収集主体が、サービス利用者からの情報(更新・修正投稿等)を基に、データの更新・修正を行う	III. サービス利用者がサービス提供者(データ利用者)を評価し、その結果が公表される	IV. オープンデータサイト等がサービス提供者(データ利用者)や収集主体を評価し、その結果が公表される
評 価 者	サービス利用者	●	●	●	
	オープンデータサイト運営者等				●
評 価 対 象	データ自体(精度)	●	●		
	サービス品質(体制等を含む)			●	●
備 考		投稿によって、サービス利用者がデータ自体の信頼性(正確性や鮮度)を直接評価		★などを用いた評価の仕組みにより、サービスやデータ収集の取組内容を評価し、間接的にデータの信頼性を評価	

